



第63回関東地区学校農業クラブ連盟大会

▲野菜農家3代目が全国大会に出場

8月22・23日、中央農業高校1年生の峯尾昇汰さん(上土棚南)が関東地区学校農業クラブ連盟大会の意見発表で見事優勝し、全国大会に出場しました。「我が家の経営改善」をテーマに、幼少の頃から志している農業への熱い思いを込めて、野菜農家3代目としての経営分析などを発表しました。

【情報提供:菅原しのぶさん(深谷南)】



▲笑って、しゃべって深めた絆

9月30日、深谷大上ふれあいの家で、大上地区社会福祉協議会主催の「笑いとおしゃべりいっぱい市」が開かれました。威勢の良い太鼓の響きに乗って道行く人も加わり、飲んで歌って一日を満喫しました。こうした事業が地域の絆を深めるのでしょうか。

【吉江 旭・広報まちかど特派員】



▲稲を鎌で刈ったよ

10月7日、小雨の中、「地球チャイルド」のお米作り体験に参加した親子、スタッフ約30人が待望の稲刈りをしました。品種は「さとじまん」。出来は上々だそうです。

【河野 実・広報まちかど特派員】



▲活況の綾西自治会運動会

10月8日、雨で順延したおかげで、体育の日の晴天に恵まれました。各競技へのエントリー者は延べ800人にもなり大盛況でした。運動を通して、多くの方が交流できたのではないのでしょうか。準備体操は壮観でしたよ。

【段木 武・広報まちかど特派員】



▲地域に根づく活気あふれる神輿

9月16日、神輿の「ソイヤー」という掛け声とはやしの音が、上深谷と中村の両地域から聞こえてきました。恒例の赤ちゃんの「みこしくぐり」では、驚いてしまう場面も。今年は外国人女性も担ぎ手に加わり、国際色豊かでした。

【馬場 正勝・広報まちかど特派員】



▲かかしに見守られて稲刈り作業

秋晴れの下、農家の方が稲刈り作業をしていました。脇でかかしが「わしも手伝いたいができないので、見守っているよ」と話し掛けて(?)いました。ほほ笑ましい光景でした。コミバス3号車「田向バス停」付近にて。

【福島 順一・広報まちかど特派員】



◀キツネノカミソリが咲きました

取内の森(落台北)にキツネノカミソリが咲きました。自生地はすっかり減少し、神奈川県など各自治体の絶滅危惧種に指定されています。管理委員会では保護育成に努めています。

【情報提供:横野さん(落合キツツキの森管理委員会)】



◀落ち葉

10月上旬、市役所南側広場の石畳に落ち葉が敷き詰められ、木陰の向こう側に初秋を感じさせる明るい夕日が差していました。なんとも言えない風景に思わずシャッターを切りました。

【高橋 元・広報まちかど特派員】

▶秋空の下の体育祭

10月14日、蓼川自治会体育祭が開催されました。あいにくの曇り空でしたが、各競技に参加した皆さんは、元気良く日頃の運動不足を補いながら楽しく親睦を深め、秋の一日を過ごしました。

【大滝 隆司・広報まちかど特派員】



各務原市と災害時の相互応援協定を締結

10月9日、岐阜県各務原市と「災害時における相互応援に関する協定書」を締結しました。災害が発生し、市や各務原市のみでは十分に救護などの応急措置ができない場合、応援を円滑に行うためのものです。

東日本大震災のような大規模な地震が発生した場合には、広域の支援体制が必要となることから、本市と同じくベッドタウンとして発展し、自衛隊の基地もある各務原市と協定を締結したものです。

相互応援協定の締結は、千葉県柏市、鹿児島県鹿屋市に次いで3市目です。圏安全安心課 ☎70・5641。

